

長谷川市長の4期16年の  
市政運営を問う



日本共産党 丸山 わき子

代表質問

市長の政治姿勢について

問

市長は、市政財政の悪化を理由に集中改革プランを策定し、市民の暮らし・福祉・教育予算を次々と削減・縮小させ、一方で経済の活性化につながる区画整理事業・関連事業を最優先に進め、この間126億円の事業費を投入。クリーンセンター建設と合わせれば200億円にもなり、市政財政を大きくゆがめてきた大規模公共事業最優先の街づくりについて伺う。

クリーンセンターは平成21年の目標を10万7千311人とする過大な人口見積もりで大型焼却炉建設。計画では平成21年の焼却ごみ量は3万2千963トンとしたが、実際には約3分の1程度であり、こんなにも大きな焼却炉は必要ではなかったと思うがどうか。

市長

人口予測の下  
方修正はあったものの当初のごみ量の算定にあたりまして、全国平均値より、かなり低い値で排出量を算定していることなどから、特に過大な施設であるとは考えておりません。

問

大きな事業をやる  
ときには、的確な調査、見積もりが求められる。八街市は最初から、ドンと大きいものをつくる計画で、そのために人口をどれだけ増やすか逆算をしており、市民の大切な税金を投入する、その執行者として大変問題があったと思う。

区画整理事業について、市民の暮らしが大変なとき、1本70万円、総額1千200万円ものけやきの植栽や第1公園・第2公園づくりには9千100万円。さらに、障がい者・高齢者の介護手当1千200万円をカットする一方で、「野馬の像」に1千100万円など湯水のごとく投入。この区画整理事業と関連事業には、国・県の補助はわずか22%。借金50億円、一般財源からは48億円が投入され、ほぼ完成に近づいている。しかし、この北側地域への進出希望者はなく、現在、有料駐車場4カ所と従来の店舗のみであり、到底経済の活性化につながるとは思えない。市長の見解を伺う。

市長

基盤整備は、  
ほぼ完了いたした

問

急性は全くなく、市民にとって身近な公共事業を後回しにし、大規模の公共事業最優先の市政運営は、市民への我慢、負担増、暮らしの圧迫を強いるものではないかと、街の活性化とは全く無縁であったと思う。

北総中央用水事業について、農家は、農産物の価格低迷や後継者問題など農業に展望が持たず、農家の気持ちと乖離した農業土木事業となっており、農業活性化につながるかと考えか。また、本管理設時、西林・松林・笹引地域の農家への説明会では、市道の拡幅・歩道整備の約束がされ、農家は本管理設への協力をしたのにもかかわらず、いまだ、その整備は手つかずとなっており、先に出された市の第2次基本計画にはその実施計画は見当たらない。農家との約束は反故に

市長

この用水を受  
益者にはもちろん、地域に対しても有益なものとするためには、農家や地域の意向を十分くみ取りながら事業を進めていく必要があると考えております。

今後、防火用水等への活用、道路整備等地域環境の整備も同時に行うことにより、農業の振興並びに地域振興に結びつけてまいりたいと考えております。

問

4期16年の市政運営は、地方自治法の精神が生かされたものだったのか伺う。

平成16年度、「受益者負担の適正化」「サービスマの適正化」の名のもとに、国保税・水道料金・介護保険料・保育料を引き上げた。このことは、市民の暮らしを直撃し、深刻な滞納状況を生み出し、国保税収納率全国ワースト1・介護保険料収納率県下ワースト1という結果を招いている。

市長

デマンド交通の導入予定はございませんが、将来に向けてふれあいバスのあり方を含め、本市におけるデマンド交通の有効性等について検証していく必要があると考えています。

市長

限られた財源を重点的・効果的に配分し、効率的な行政運営を行う観点から、必要な行政サービスを提供してまいりました。

ふれあいバスの  
充実について

問

高齢者から、ふれあいバスは「バス停に行くまでが大変」「帰りが困る」など切実な声が上がっており、玄関から目的地までの乗り合いタクシーのデマンド交通システムの導入を求めるが如何か。

